

飼料用トウモロコシの新しい優良品種「31P41」

福島県農業総合センター 畜産研究所飼料環境科

部門名 飼料作物 - 飼料作物 - 品種

担当者 松澤保・新妻恭子・山内圭一・栗原三枝・森口克彦

新技術の解説

1 要旨

畜産研究所で飼料用トウモロコシ栽培試験を実施し、その結果を「福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準」(平成15年改訂)に基づき評価した。

その結果、「31P41」が飼料用トウモロコシとして本県においても優良な品種であることが認められた。「31P41」の主な特性は以下のとおりである。

- (1) 発芽から刈取適期である黄熟期までの日数が、標準品種であるセシリアより3日、32K61より6日遅い中晩生タイプである(表1)。
- (2) セシリア及び32K61と比較してすす紋病、ごま葉枯病、黒穂病、根腐病、紋枯病の耐病性に優れている(表2)。
- (3) 全乾物収量はセシリア及び32K61より多い(表3)。
- (4) 流通名は「パイオニア120日(31P41)」であり、販売元はパイオニアハイブリッドジャパン株式会社である。

2 期待される効果

飼料作物の収量性及び耐病性の向上により安定した自給飼料生産が期待できる。

3 適用範囲

平坦部の飼料用トウモロコシ一期作地帯

4 普及上の留意点

- (1) 適期播種を行い、病害や倒伏を軽減するために栽植密度は6,000本/10a以下とする。
- (2) 紋枯病の耐病性は標準品種とほぼ同等または優れているが、病害発生程度は高いので紋枯病多発地帯での栽培は避ける。
- (3) 早晩性のタイプはカタログのRM値によって分類しているが、作付の際の品種選定に当たっては生育日数も考慮する。

具体的データ等

表1 生育特性(3年間平均)

	RM (カタログ)	生育日数(日)			稈長 (cm)	着雌穂高 比率(%)	倒伏・折損率(%)		
		播種～出芽	出芽～絹糸	発芽～黄熟			倒伏率	折損率	合計
中晩生 標準品種									
セシリア	115	9	71	121	284.1	52.8	0.0	3.8	3.8
32K61	122	10	74	118	314.0	47.0	0.0	4.8	4.8
検定品種									
31P41	120	9	72	124	314.5	48.1	0.0	2.0	2.0

表2 病害発生程度(3年間平均)

	すす紋病 (1～9) [※]	ごま葉枯病 (1～9) [※]	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	ずじ萎縮病 (%)	紋枯病 (%)
セシリア	3.9	6.1	4.5	3.4	0.0	45.5
32K61	3.3	4.3	5.0	1.8	0.0	29.8
検定品種						
31P41	2.9	3.9	2.5	0.3	0.0	29.4

※1: 病害が見られないものを1、甚だしいものを9として表示

表3 乾物収量(3年間平均)

	乾物収量(kg/10a)			乾物率(%)			乾雌穂 重割合 (%)	乾物収量 [※] 対標準品種比率
	茎葉	雌穂	全体	茎葉	雌穂	全体		
中晩生 標準品種								
セシリア	816.6	1042.0	1858.7	21.4	60.8	33.8	56.2	
32K61	947.7	969.1	1916.8	20.8	60.7	31.2	50.6	
標準品種平均	882.2	1005.6	1887.8					100.0
検定品種								
31P41	1010.1	976.4	1986.5	23.8	60.9	34.0	49.1	105.2

※各早・中晩生品種毎の比率

その他

1 執筆者

松澤保

2 主な参考文献・資料

- (1) 福島県優良品種(輸入F1サイレージ用トウモロコシ)総合評価基準
- (2) 平成18～20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006～2008)